



有機農業を農業の主流に

2025年9月4日

農林水産省 有機農業の推進に向けた意見交換会



土作りと味にこだわる農業者集団

株式会社マルタ

【会社概要】

- 名称 株式会社 マルタ（旧：マルタ有機農業生産組合）
 - 本社（事業本部）：東京都千代田区外神田
 - 設立 1975年1月（有限会社）、1977年2月（株式会社）
 - 資本金 8,850万円 、株主数 124名（産地/個人）
 - 売上高 111.2億円【2025年3月期】
- 私たちは、南九州を発祥とし、全国2,000名超の生産者と契約し、出荷する産地や産地の代表者が株主となり出資して設立された株式会社です。
- 産地の形態は法人・JA（部会）・任意組合・個人と様々ですが、北海道から沖縄まで約385ほどの産地が連携し合ったネットワーク型生産者組織になります。

全国の産地をリレーして 旬のこだわり農産物を1年中安定してお届け

マルタには、北海道から沖縄まで、共通の理念を持った生産者のネットワークがあります。全国に広がる約385のグループで、多種多様な品目を生産しており、どの産地においても、土づくりと味にこだわり、安全性と環境に配慮し、安心しておいしく食べられる農産物づくりに尽力しています。そうした技術と熱意を持った生産者の集まりだからこそ、有機栽培や特別栽培といった栽培基準への対応、希少な品種や新しい品種、機能性など、取引先の要望に合わせた提案が可能です。

全国の産地ネットワークを活用し、こだわり農産物を旬の産地でリレーすることにより、周年で安定した供給体制の構築を目指しております。栽培に無理の少ない旬の産地をつなぐだけでなく、離れたエリアに複数の産地を配置することにより、毎年発生する自然災害や異常気象による被害の際にも強みを発揮しています。

マルタは生産者自身が運営する組織です。産地ごとの特徴を的確に捉え、取引先の要望を最大限に叶える生産体制を計画的に組み立てることが可能です。

385グループ

約**385**グループ
2000名以上の
生産者ネットワーク

2,000名以上



プロとして切磋琢磨し合う 生産者たち

方向性を同じくする生産者同士のつながりは強固です。研修や地区・全国の大会等で定期的に顔合わせ、成果や課題を報告し合って互いのレベル向上に努めています。商品開発では、地理的に離れた生産者同士でも情報を共有しチームを組んで取り組み、数々の成果を挙げました。

また、多くの生産者が、GAP（農業生産工程管理）手法を積極的に導入し、食品安全・労働安全・環境保全への取り組みを向上させ、経営改善に役立てています。国際的な規格であるグローバルGAP認証取得は、グループ内で165以上の農場にのぼり、取引先から厚い信頼を得ています。

畑と食卓をつなぐ 仕組みづくり

出荷された農産物を食卓へお届けする物流業務も変化しております。産地直送形式が多かった時代に比べると、産地での小口物流の真通や見送りタイム短縮への対応の影響で、近年、消費地に近いパッケージセンターの役割が大きくなっています。

現在マルタでは、パッケージセンターを自前では持っておりませんが、業務委託する物流企業と協業し、取引先からの要望に応じた物流体制の整備と、きめ細やかな受発注コントロールを行っています。エリアごとの物流拠点やコーディネート体制の整備を進め、産地から人荷した農産物の確実な保管・選果・商品化と迅速でスムーズな供給体制を構築しております。



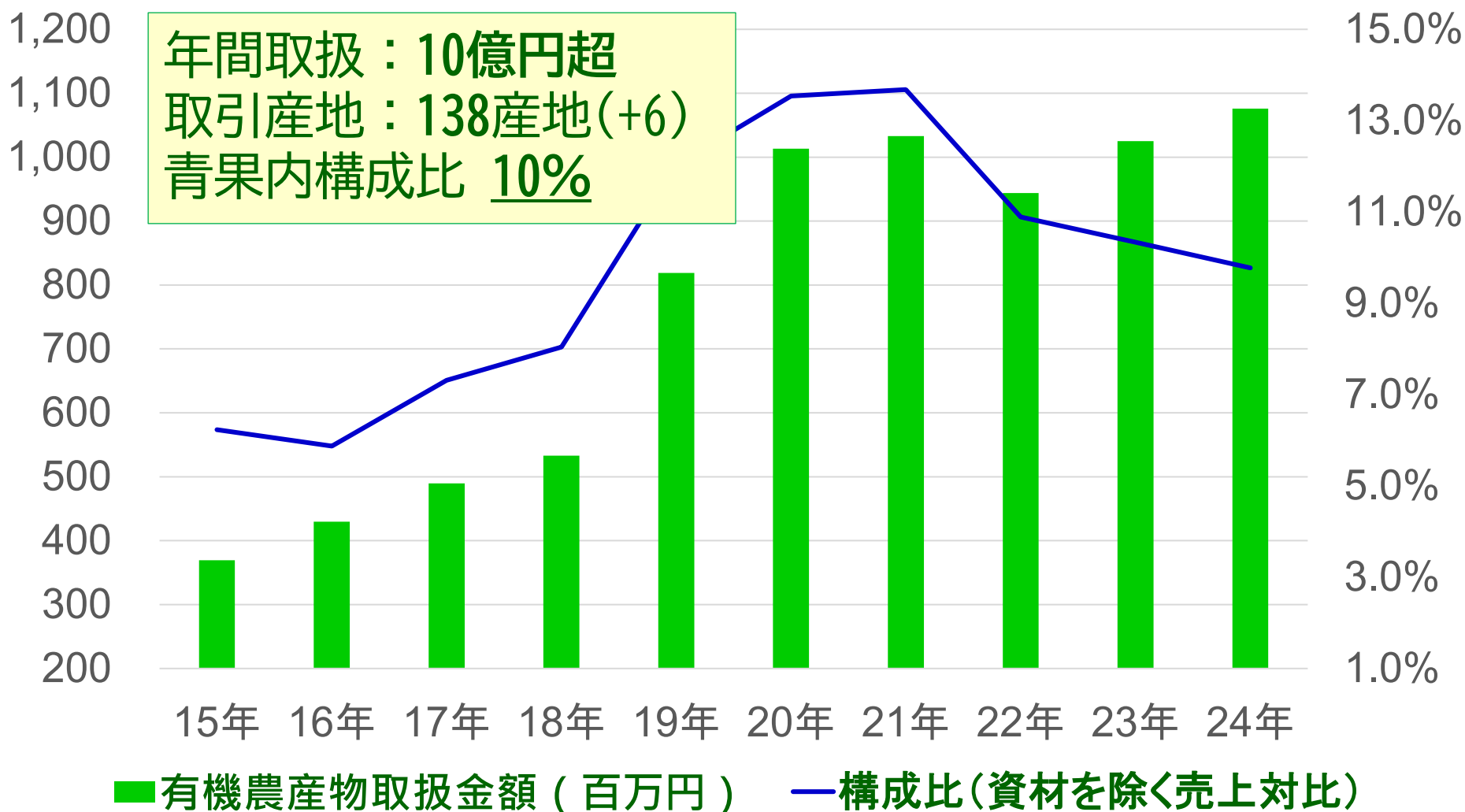
- 組織設立3年目の1978年静岡県藤枝市（当時）に組合独自の堆肥工場（グループ会社）を作り、以来会員限定の肥料として生産者の基幹資材となっており、年間3万袋以上を出荷。



- 魚粕や米ぬか、骨粉など、なるべく多くの有機物（15種類程度）を混合し醗酵させたもので、有機由来の原料だけを使用しており、**JAS（日本農林規格）有機適合資材**です。

マルタの有機/オーガニックの取り扱い実績

年間取扱：10億円超
取引産地：138産地(+6)
青果内構成比 10%



- 青果のみでなく有機加工食品の取り扱い・原料供給カテゴリー、有機米 (学校給食) は続伸しており新たな領域を開発しつつある。

①ロットが小さいことによる運賃問題

- ◆ 宅急便による配送割合の多さ(手間、特に夏場のクール便の高さ)
- ◆ 原料で小分け加工所へ、それから小売りのセンターへという二重運賃(どうしても売価へ反映)。鮮度の低下も問題。
- ◆ 業者間連携も含めできるだけ共同仕入れ・共同配送を目指す。また小売り側のセンターで小分け認証を持っているところとは組み易い

②食品加工との連携(青果だけで課題解決する限界)

- ◆ 求められる価値をどう作っていくか
- ◆ 有機加工食品メーカーとの連携、グローワーパッカーの育成

③有機・オーガニックの価値を伝えていく努力

- ◆ なぜ有機・オーガニックなのか。イメージの肉付けと情報発信

④生産性向上に向けた投資

- ◆ 品種、資材(有機で使えるもの)、技術の開発
- ◆ 除草負担の軽減

ご清聴ありがとうございました。

【担当連絡先】

株式会社マルタ

代表取締役社長執行役員 鶴田諭一郎

y-tsuruda@maruta-mogura.co.jp

- 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-5-12
偕楽ビル(新末広) 3F
- TEL:03(5818)6961(代表)
- FAX:03(5818)6966